

# live

15

ライブ live: 「自分らしく輝いて生きる」という想いを込めた男女共同参画推進のための情報紙です。ぜひご覧ください。

## CONTENTS

- 2 特集 高齢化が進む山口市で、輝いて生きる秘訣！  
「身近な世代、地域と、身近くつながる」
- 6 山口市男女共同参画推進シンボルマーク  
キャッチフレーズ決定
- 7 クロスワード
- 7 本とDVDの紹介
- 8 漫画で考える「男女共同参画」！

## 21地域別人口に占める 65歳以上の 人数と割合

※平成25年8月31日現在（外国人含む）

### 阿東地域

6,606人 (3,055世帯)

3,139人 47.5%

### 宮野地域

15,451人 (6,720世帯)

3,542人 22.9%

### 徳地地域

6,669人 (3,041世帯)

2,934人 44.0%

### 吉敷地域

14,845人 (6,221世帯)

2,891人 19.5%

### 大殿地域

7,764人 (3,898世帯)

2,183人 28.1%

### 仁保地域

3,354人 (1,471世帯)

1,160人 34.6%

### 湯田地域

12,528人 (6,200世帯)

3,204人 25.6%

### 白石地域

10,711人 (4,798世帯)

2,554人 23.8%

### 大歳地域

13,188人 (6,021世帯)

2,663人 20.2%

### 大内地域

23,341人 (9,455世帯)

4,530人 19.4%

### 小郡地域

24,612人 (10,788世帯)

5,148人 20.9%

### 平川地域

15,978人 (7,693世帯)

2,742人 17.2%

### 小鯖地域

4,612人 (1,964世帯)

1,369人 29.7%

### 嘉川地域

6,976人 (2,805世帯)

2,221人 31.8%

### 陶地域

2,468人 (1,087世帯)

766人 31.0%

### 鑄銭司地域

2,769人 (1,367世帯)

1,039人 37.5%

### 名田島地域

1,476人 (575世帯)

578人 39.2%

### 佐山地域

2,890人 (1,159世帯)

926人 32.0%

### 秋穂二島地域

2,570人 (1,086世帯)

992人 38.6%

### 阿知須地域

9,398人 (3,724世帯)

2,612人 27.8%

### 秋穂地域

7,175人 (2,979世帯)

2,584人 36.0%





## 特集

高齢化が進む山口市で、輝いて生きる秘訣！

# 「身近な世代、地域と、身近くつながる」

### プロフィール

高野 和良(たかの かずよし)

過疎地域で急速に進む世帯の小規模化や地域社会の変化のなかで、人々が何を思い、どのように行動しているのかを明らかにし、これからの高齢社会のあり方について地域福祉社会学的に研究。

略歴

1963年熊本県生まれ。

九州大学大学院文学研究科修士課程修了。社会保障研究所(現、国立社会保障・人口問題研究所)研究部研究員、山口県立大学社会福祉学部教授を経て、2009年10月より現職。

九州大学 大学院 人間環境学研究院

准教授

たかの かずよし  
高野 和良 氏

「山口市民の8割が、住んでいる地区が好きだ！という愛着をもっていて、自分たちの暮らす地区のために役立ちたいと思っていますよ」と語る、九州大学の高野和良准教授に、輝いて生きる秘訣を伺いました。

## 世帯が小さくなる

山口県の高齢化率が、全国のなかでも上位に位置しているということはよく知られています。高齢化率の上昇という人口構成の変化は確かに大きな問題ですが、高齢者が誰とどのように暮らしているのかによって、その問題の持つ意味合いも異なってきます。つまり、子どもや孫と共に暮らす高齢者が多いのか、あるいはひとり暮らしや夫婦のみで暮らしている場合が多いのか、世帯の実態を見たときに、山口県のもう一つの特徴が見えてきます。

山口県の高齢者のひとり暮らし世帯(高齢単独世帯)の割合は全国のなかでも上位にあり、ひと言でいえば、高齢者の世帯が小規模化しています。この傾向は全国一律に進んでいるのではなく、中国や九州地域といった西南日本で先行していて、かなり地域的な差があります。2005年当時、全国でもっとも高齢単独世帯の割合が高かったのは鹿児島県でしたが、山口県も全国3位でしたし、これから約15年後の2030年将来推計でも上位にあることは変わりません。

山口市内をみても、旧山口市、旧小郡町と比較して、旧徳地町、旧阿東町の割合が高いことがわかります。もちろん、比較的割合が低いところでも、より小さな町内会などの単位で見ると、郊外

### 山口市旧市町別の一般世帯総数に占める高齢単独世帯の割合

	高齢単独世帯割合 (%)
山口市	9.7
旧山口市	8.9
旧徳地町	19.0
旧秋穂町	11.0
旧小郡町	8.6
旧阿知須町	10.3
旧阿東町	18.8

出所：総務省統計局『平成22年国勢調査』から作表

### 都道府県別の一般世帯総数に占める高齢単独世帯の割合

2005年 (%)			2030年 (%)		
順位	全国	7.9	順位	全国	14.7
1	鹿児島県	13.4	1	鹿児島県	19.5
2	高知県	12.7	2	高知県	19.0
3	和歌山県	11.2	2	和歌山県	19.0
3	山口県	11.2	4	宮崎県	18.1
5	宮崎県	10.6	5	山口県	18.0
6	愛媛県	10.5	6	愛媛県	17.3
7	長崎県	10.3	6	長崎県	17.3
8	大分県	10.2	8	大阪府	17.2
9	大阪府	9.5	9	北海道	17.0
10	島根県	9.4	10	兵庫県	16.7
10	徳島県	9.4	11	大分県	16.5

出所：国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)2009年12月推計』

単独世帯の増加に加えて、夫婦だけで暮らす高齢者も増えていきます。単独世帯の高齢者には、周囲の住民も気にかけて、民生委員をはじめとして、社会福祉協議会でも見守り活動の実施、ふれあい・いきいきサロン(注2)へのお誘い、お弁当の配食など様々なサービスに取り組みられています。ですが、夫婦だけで暮らしている世帯はお互いに支え合っているのではなく、お声がけするのは少し差し出がましいのではないかと、いった遠慮もあって、実際にはほとんどそうしたサービスが利用されていないのが現状です。しかし、夫婦のどちらかが具合が悪くなると、相手の方も負担が増えて体調を崩されると

### 多様な世帯の姿と新たな課題

の団地や町中では、高齢単独世帯が多い場合も少なくありません。いずれにせよ、世帯の極小化の実態は地域によってかなり異なるため、それぞれの地域がどのような状態であるのかを確認し、住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らせるように、身近な地域で社会福祉の推進を目指す、地域福祉の取り組みが求められています(注1)。

注1：山口市では社会福祉法に基づき、地域福祉推進の仕組みづくりを内容とする「山口市地域福祉計画」を策定しています(現行計画の計画期間は2013年度までのため、次期計画が策定中です)。この計画は、地域福祉を支える組織である山口市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」と一体的に策定され、地域福祉のさらなる充実が目指されています。

### あつまる！ つながる！ 地域の活動



#### 「第2の成人式」熟年式

還暦を迎える人たちのこれまでの社会貢献に感謝し今後の健康を願おうと、市社会福祉協議会阿知須支部が毎年開催しています。

問 山口市社会福祉協議会阿知須支部  
TEL 0836-66-2000



#### 串地区老人作業所 ゆめ工房

高齢者が豊富な人生経験と生活の知恵を生かし、作品の製作を行うことができる施設です。毎週木曜日に定例作業を行っています。

問 山口市徳地鯖河内1703番地1  
TEL 0835-54-0366

といった例は、よく知られていることです。世帯の小規模化は、ひとり暮らしだけの問題ではなく、夫婦だけで暮らす世帯の問題としても捉える必要があります。ふれあい・いきいきサロンでも、男性の参加が少ないといった声が聞こえてきます。これからは、夫婦で参加できる活動を見つけ、地域でもそうした場を設けていくことが必要だと思います。集まる場所や機会をたくさん持つている地域社会は安定しているともいえるのです。

注2：地域で高齢者、障がいを抱える人、子育て中の人などが生きがい活動と元気に暮らすきっかけを見出し、地域住民としてのつながりを深める自主活動の場。山口市内でも広がりを見せている。

また、これまでの家族の姿は、ひとり暮らし、夫婦のみ、三世代などといった形に収まっています。例えば人口減少と世帯の小規模化が急速に進みつつある過疎地域で、高齢者のいる世帯をみると、例えば90歳の母親と65歳の娘といった二人暮らしの世帯、80歳の父親と75歳の母親と暮らし50歳の独身の息子といった二世帯世帯などのように、これまでとは様子が異なる世帯を目にするようになりました。どちらかといえば不安定な世帯が増えてきている印象があります。都市部では引きこもる若者や高齢者の問題も指摘されていますが、世帯の規模だけの問題ではなく、誰と暮らしているのか、といった中身が変化してきているのです。

## 世代間の関係を見直すこと

世帯の小規模化のもう一つの問題は、高齢者は高齢者だけで暮らす、子育て中の若い世代は夫婦と子どもだけで暮らすといった世帯が増えるために、世代間のつながりが弱まることにあります。

高齢社会が成熟化し、高齢者が社会のなかでその存在感を増しつつあるといわれていますが、若い世代にとって、高齢者が何を思い、日々どのように暮らしているのかを身近に目にする機会がむしろ少なくなってきました。地域のお祭や運動会も、以前に比べれば参加する人が

減ってきているといわれます。身近な家族としても、地域で暮らす相手としても、世代を越えた関係を結びにくくなってきているのです。

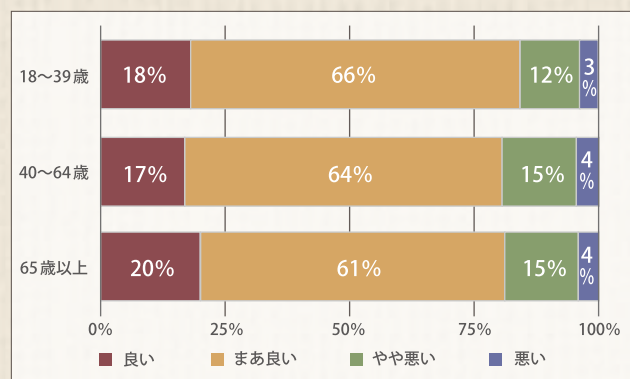
結果として、高齢期に対する漠然とした不安感が若い世代に広がっています。若い世代にとって、自分たちの高齢期の生活のイメージが曖昧であることが、その背景にあるようです。大学生たちに聞いても、出てくるのは年金制度の不安定化、介護の担い手不足、労働力不足といったきわめて大きな話ばかりで、自分の家族が高齢期にどのように暮らしていくのかといった身近で具体的なイメージはとても漠然としています。こうした関係性の変化は、世代間の問題に留まらず、都市と農村といった地域間の関係でも起こっているようです。一つの例として、限界集落という言葉を考えてみましょう。高齢化率が50%を超えているという点がクローズアップされ、マスコミでは「都会でも限界団地が出現」などと使われるようになりました。人口減少と高齢化が進む過疎地域には暗いイメージが付きまといいますが、実際の集落では、高齢化率が50%を超えて、100%に達していたとしても、高齢者が家のまわりで畑仕事をしながら、できた野菜を離れて暮らす子どもたちに送ってやり、近所の高齢者と声を掛け合いながら暮らし続けています。地域の祭や行事はもとより、道普請などの活動も続けながら、むしろ忙しく暮らしている高齢者の姿がそこにはあります。また、ひとり暮らしの高齢者であっても、自動車で30分ぐらいのところに住んでいる娘や息子が、様々な手

伝いをして例は少なくありません。

こうした高齢者までも、ひとり暮らし世帯として単純にまとめてしまつてよいのでしょうか。世帯の範囲を少し広げ、近くに住んでいる子ども世代との関係を含めて暮らしの実態をきちんと捉え、どのような支援が必要かを考えていく視点も必要です。きつと民生委員、社会福祉協議会の福祉員、住民の方は、普段の見守り活動などを通じて、このことに気付いていらっしゃるのではないかと思います。



## 「全体的にみた地域の住み心地」への年齢層別山口市民の評価



出所：山口市社会課 2013『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』

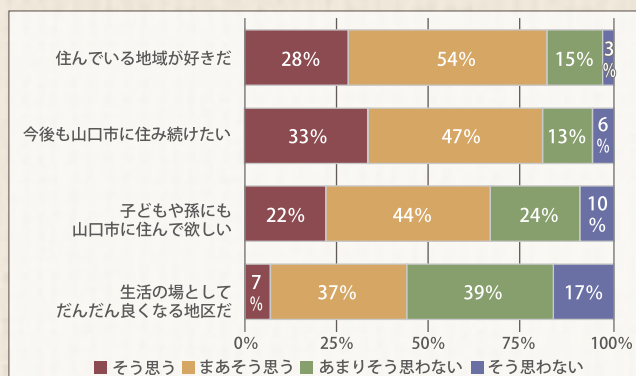
注：端数処理のため合計が100%にならない場合がある(以下同様)。

## つながりを持つということ

幸いなことに山口市民は全体としての山口市の住み心地を高く評価していることがわかります(注3)。年齢層別にみた場合に、満足しているからこそ長く住み続けてきたと思われる高齢層とあまり変わらない満足感を18～39歳の青年層が感じていることも大きな特徴といえます。

また、住んでいる地区が好きだという愛着を持つ市民の割合は8割を超えています(「そう思う」「まあそう思う」との合計)。また、今後も山口市に住み続けたいという永住意思も高く、子どもや孫にも山口市に住んで欲しいとする割合も7割弱と高くなっています。山口市民の生活

## 山口市民の地域社会に対する意識



出所：山口市社会課 2013『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』

の場としての地区に対する高い愛着度の存在が示されています。

注3：注1でふれた山口市地域福祉計画、山口市地域福祉活動計画策定の基礎的な資料とするために実施された社会調査結果からの抜粋です(調査概要は次の通り)。

調査期間 2013年2月15日～3月25日

調査方法 郵送法

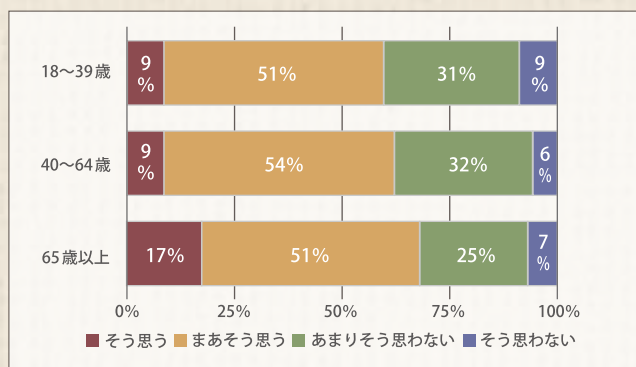
調査対象者数 4041人(4056票を配布し、15票返送)

有効回答者数 1752人

回収率 43.4%

一方で、「生活の場としてだんだん良くなる地区だ」という将来展望についての意見には、否定的な割合(「そう思わない」「あまりそう思わない」との合計)が半数を超えています。山口市に愛着をもっているにもかかわらず、将来に対してはあまり樂觀できないという、先にふれた、将

## 「地区のために何か役に立ちたい」への年齢層別山口市民の評価



出所：山口市社会課 2013『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』

来への不安が顔をのぞかせています。

愛着のある地域で暮らしていきたいという思いは、自分たちの暮らす地域のために何かできることがあれば参加してもよいという意識につながるでしょう。実際に、世代に関わりなくその思いが多くくの市民に共有されていることがわかりますが、問題はこうした思いを実際の取り組みにつなげていくことができるかどうかにあります。

世代間、地域間のつながりを持ち、将来に対する不安を減らすためには、性別や世代にかかわらず様々な立場の人が、いま何が起こりつつあるのか、そして、それにどのように対応することができるのか、まずは身近な世帯のことから考えていくことにつぎるのではないのでしょうか。

★「あつまる！つながる！地域の活動」実例は次ページ！



生涯現役社会づくり学会

活動実践者と研究者等が協働し、高齢者・中高年の生きがいや社会参加などの研究や支援をしています。

問 山口県立大学 附属地域共生センター(高齢部門)  
TEL 083-928-4776



ほっとさろん中市  
「まちのえき」

商店街の中にあり、交流や休憩の場として、誰もが気軽に利用できる憩いのスペースです。

問 山口市中市町3-14  
TEL 083-934-0811



山口市市民活動支援センター  
さぼらんて

「誰もが笑顔で暮らせるまち」に向けて活動している市民団体、これから活動したい市民を応援しています。市が設置し、NPOが運営。

問 山口市道場門前1-2-19  
TEL 083-901-1166



ふれあい・いきいきサロン

地域の「仲間づくり」「出会いの場づくり」を図る活動で、「楽しく」「気軽に」「無理なく」すごせ、茶話会や交流会などを行っています。

問 山口市社会福祉協議会  
TEL 083-924-0543

場所

山口市男女共同参画センター・  
山口市市民会館ほか

開催日時

平成26年  
11月13日(木)～14日(金)

テーマ

ともに過ごそう 新しい風  
～維新の里 やまぐちからく～

第23回男女共同参画全国都市会議  
in やまぐち開催決定！



山口市の「y」の文字を基調に、  
男女が共に輝く未来へ  
元気に躍動する姿が  
表現されています。

「シンボルマーク」

山口市男女共同参画推進  
シンボルマーク&キャッチフレーズが決定！

「キャッチフレーズ」

支えあい  
認めあい  
あなたも私も  
輝く山口

※注意 この「シンボルマーク」と「キャッチフレーズ」  
の著作権は、山口市に帰属しています。

男女共同参画全国都市会議は、  
政令指定都市を除く人口30万人以  
上及び県庁所在都市で組織し、毎  
年1回開催されています。

会議は、男女共同参画に関する  
問題を総合的に研究討議し、都市  
間の交流促進、男女共同参画社会  
の実現に向けた施策の実践的展開  
を図るものです。内容は内閣府基  
調講演や分科会などで、市民の皆  
様に参加いただける記念講演会を  
11月14日に予定しています。



# 漫画で考える「男女共同参画」!

## まちづくり協議会



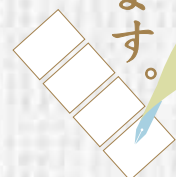
## 身近なつながり



## 地域力って?



エピソードを募集します。



家庭や職場、学校、地域などで、日常のうれしい、楽しい、またちよつと我慢ならぬような「男女共同参画」のエピソードを募集します。

採用されたエピソードは四コマ漫画となって「山口市男女共同参画センター」の公式サイトで公開します。

### 応募方法

3月14日(金)までに、はがき裏面(文面)にエピソードを記載し、表面に郵便番号・住所・氏名をご記入の上、左記へ送付してください。ペンネーム・封書・メールでの応募は不可(当日消印有効)。

〒753-0074

山口市中央二丁目5-1

山口市男女共同参画センター

ゆめほぼら

「男女共同参画」エピソード係宛

「山口市男女共同参画センター」公式サイト

<http://www.y-djc.com/>

山口市男女共同参画センター

検索